



令和5年度 中学生ヒロシマ平和の旅 事業実施報告



中学生ヒロシマ平和の旅について

伊勢原市では、次代を担う若年層の平和意識を啓発することを目的に、中学生平和の旅事業を行っています。

令和5年度は、中学生平和作文の受賞者8名が「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として広島へ赴き、平和学習を行いました。

事業内容

日時：令和5年8月5日（土）～6日（日）

場所：広島平和記念公園・広島平和記念資料館 ほか

参加者：中学生ヒロシマ平和の旅派遣団 8名 ほか

（旅の実施まで）

- ・事前学習会と市長表敬訪問

（旅当日の行程）

- ・「ヒロシマ青少年平和の集い」参加
- ・広島平和記念資料館見学
- ・平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）参列
- ・広島市内散策
- ・袋町小学校平和資料館見学

（旅の実施後）

- ・「平和を祈念するパネル展示」にて展示する体験報告書の作成



8月5日 原爆ドーム前にて

事業報告

○市長表敬訪問・事前学習会 7月28日（金）

伊勢原市役所にて市長への表敬訪問を行い、激励のことばをもらいました。その後に行った東海大学文化社会学部広報メディア学科水島教授による事前学習では、伊勢原市被爆者の会の大盛一郎さんと小淵義信さんから被爆のお話を聞きました。



○広島での様子

8月5日（土）

11：35 広島市到着

広島の天気は快晴。ホテルでお弁当を食べ、水島教授の解説を聞きながら「ヒロシマ青少年平和の集い」が行われる広島市役所を目指します。会場に入る前に市役所旧庁舎史料展示室で被爆の記録に関する資料を見ました。



13：30 中・高校生ピースクラブ主催「ヒロシマ青少年平和の集い」参加

全国8都県全14団体の小中高校生と「あなたにとっての平和とは」と「なぜ核兵器はあるのか」をテーマにディスカッションを行いました。ほかにも原爆被害の概要説明や、笠岡貞江さんによる被爆体験講話を聞き、原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学びました。



●派遣団の声

- 平和や核兵器についての考えが自分とは違って興味深かったです。また、全体の意見交換では自分のグループとは全く異なる意見が沢山あり、大人数でのこのような交流をする機会は滅多にないので良い経験になりました。(岩田)
- 被爆者の方の話が、とても興味深く、イラストや写真も交えての説明だったので、戦争をより現実のものとして捉えることができた。原爆によって負傷し、亡くなったお父さんを自らの手で火葬したという話には、当時の広島の人達が味わった深い苦しみや虚しさを感じた。(北村)

17:00 平和記念公園散策

原爆ドームを見た後、原爆の子の像へ自主企画の奉納をしました。また、平和記念公園内の案内板を見て、被爆前の人々の日常の営みを感じました。



18:00 平和記念資料館見学

貴重な資料から、原爆の恐ろしさや平和の尊さを学びました。



●派遣団の声

- 被爆者の無念、憎しみ、悲しみ、痛み、苦しみなどが直に伝わってきて、僕にとっては辛い空間でした。しかし、そういったものこそ、伝えていくべきものだと感じました。(川内)
- 資料館には原爆被害の全てが展示されており、どれも見るのが辛かった。あのような惨状を2度と繰り返してはいけないという気持ちが深まったと共に、何も知らずに生きてきたのだなと感じた。(網代)

8月6日（土）

8：00 平和記念式典参列

伊勢原市民を代表して式典に参列し、平和を祈りました。



●派遣団の声

- 年齢や国を越えて、多くの方が広島に集まり、心から平和を願い黙祷をしました。核兵器を廃絶しない限り、争いは絶えることなく続く現状なのだと痛感しました（田邊）
- 8時15分に黙とうを捧げたとき、78年前の今、被爆した人々を想像して、胸が痛くなりました。核兵器廃絶が早く実現してほしいと、心から思いました。（大邊）

10：00 広島市内散策(被爆遺構→原爆死没者追悼平和祈念館→レストハウス→爆心地)

被爆遺構展示館では、人々の日常の営みが一発の原子爆弾により一瞬にして失われたことを肌で感じました。



原爆死没者追悼平和祈念館では、爆心地付近から見た被爆後の街並みを見ました。



レストハウスの地下室で、被爆当時建物内で唯一の生存者である野村英三さんの手記等を見ました。その後、爆心地の島病院を見学し、原子爆弾の炸裂した上空580メートルを見上げました。



10:45 袋町小学校平和資料館見学

爆心地から460メートルの位置にある袋町小学校平和資料館では、当時袋町小学校に通っていた奥本博さんから被爆体験のお話を聞きました。



●派遣団の声

- 被爆した袋町小学校に実際に立ち被爆者の方の話を聞いたことが印象的です。78年前の同じ日、この場所からはどんな景色が見えただろうと考えさせられました。(永澤)
- 実際に使われていたものが展示されていたりと、とても臨場感を感じるものとなりました。実際に使用されていた壁の伝言は当時の様子を物語っており、悲惨なものでした。(関西)

15:10 広島駅発

19:30 伊勢原駅着
長旅お疲れ様でした！



○派遣生徒の感想 -中学生ヒロシマ平和の旅に参加して-

団長 関西 凰次郎（山王中学校）



改めて平和について考える機会となり、行く前と比べて平和に対してより深く、色々な視点から見た考え方ができるようになりました。同級生には、今回知った多くの事の中でも改めて「今が幸せなんだよ」という当たり前ではない今の生活の尊さを伝えていきたいです。

副団長 川内 康平（伊勢原中学校）



平和について、作文を書いたときは「一人一人が当たり前知っておくべきもの」という認識だったのが今回の旅を通し、「知った上で、一人一人が考えていくべきもの」という風になりました。そうして行動すれば、確実に世の中は変わっていく、ということを伝えたいです。

永澤 優（山王中学校）



私は平和の旅を通して、机の上では学べない経験を得ました。実際に広島を訪れたことで核兵器の恐ろしさを実感しました。これからの平和な未来を築いていくのは私達です。自分にとっての平和とは何かを考え、伝え続けていくことが大切だと思います。

北村 葵（伊勢原中学校）



「平和」というものは、すごく漠然としていて、確かな答えは分からない。けど、今回の旅を通して、今の日常がいかに尊いのかを学んだ。でも、現状に満足してはいけないとも思った。まだ核を保有している国がある現状では、いつかまた同じ悲劇が起こる。唯一の被爆国である日本として、過ちを繰り返してはいけないことを世界に訴えていくべきだと思う。私は、伊勢原中学校のみんなに戦争のリアルを伝えていきたい。

岩田 奏楽（成瀬中学校）



核兵器、戦争があってはならないものという考えは同じ。でも、どれだけ恐ろしいかが想像もついでいないほどで、不幸しか生まないのだと解った。今生きる世界は平和で、平和であることの意識・戦争の現実を伝えていきたい。

大邊 晴子（成瀬中学校）



平和作文を書いたときより、平和を願う気持ちがとても強くなりました。実際に見て、聞くことで感じられる核兵器の恐ろしさや平和の尊さを、身近な人に伝えたいと思います。平和の旅を通して、戦争について深く考えられたので、とてもいい経験になりました。

網代 和真（中沢中学校）



平和とは当たり前が当たり前でできることだと思っていた。しかし、水島先生は「原爆が落ちる前の広島にも当たり前があった」とおっしゃっていた。僕は2日間を通して、平和とは当たり前が誰かに壊されず、長く続いていることなのだと感じた。

田邊 翠海（中沢中学校）



戦争を知らない私たち若者が平和の鍵を握っているのだと強く感じ、改めて願うだけでなく行動しようと強く誓いました。戦争は多くの命を奪うだけではなく、残された人々に悲しみをもたらすということをまずは身近な友へと語り継いでいきたいと思います。

派遣団の皆さん、東海大学水島ゼミの皆さん、
随員の先生方、忙しい中、本当にお疲れさまでした！



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン